

*****令和6年度天草支部の取り組み*****

記録者：荒木 明美（天草市立佐伊津小学校）

1. 研究テーマ

小・中の滑らかな接続を意識した授業の創造

2. 研究の実際

1 本年度の取組

（1）研究推進委員会

- ① 第1回 6月 7日（金） 県役員会報道、英語部門事業計画について
- ② 第2回 8月27日（火） 英語部門研修会について、構想案検討会

（2）天草教育研究所「英語部門研修会」

9月20日（金） 於：天草市立五和小学校

参加者：天草管内の小中学校英語担当者43名（小学校15名、中学校28名）

① 公開授業（小学校外国語科）

Unit4 My Summer Vacation 天草市立五和小学校 第6学年2組

授業者 田中 果 教諭（天草市立五和小学校）

高戸 美優 教諭 ALT ティアナ（天草市立五和中学校）

② 授業研究会

助言者 熊本県教育委員会英語・日本語教育推進室 岡崎 卓 指導主事

③ 研究協議から

本年度も小中連携を大きなテーマとして天草教育研究所英語部門研修会を実施した。天草の強みである1小1中の学校を今年も会場校として依頼した。昨年度は中学校の授業を提案したので、今年は小学校の授業に中学校教諭が乗り入れるという指導形態を行った。指導者同士が小中学校の授業の実態を知ること、そして指導法を繋ぐこと、これが天草においては喫緊の課題であるとする。また天草の課



題として、小規模の中学校が多く、英語担当者同士のネットワーク（中中連携）により専門性や指導力向上をめざすことがある。天草の実情をご存知の英語・日本語教育推進室の岡崎指導主事に、連携の在り方についてご指導をいただいた。このように毎年天草では小中一堂に会して研修会を実施することこそ、互いを知るという意味で連携の第一歩ともおっしゃっていた。



中学校の指導者にとっては中中連携を進めていく上で今日の研修はよいきっかけとなった。次年度は小中研究会の会長からのまとめでも、すべての教員が集まり、授業について話し合う場、研修の機会をもっと確保していきたいという話があった。

小学校の6年生の学びの姿から、書く力や話す力を確実に中学校の指導者は引き継ぐということも意識される機会となったことも成果である。次年度も授業を通した研修会を実施していきたい。併せて研究員の研修も現在の年度3回から増やしていきたいということも委員から出された。

2 まとめ

今年度も天草管内の今日的な教育課題に基づき、「小・中の滑らかな接続を意識した授業の創造」を研究テーマとして活動を行った。今年度は小学校での「書く」活動に焦点を当て、小学校がどのように指導しているか、また中学校ではどのような学習からスタートするのか、小学校6年生と中学校1年生の書く活動を繋ぐことができるよう研究協議を行った。

天草教育研究所英語部門研修会においては、毎年小中学校併設校を用いて研修を実施している。天草の中学校の19校のうち15校が1小1中となっている。この1小1中の現状を天草の強みにしたいと考え研修を進めてきた。今年度も乗り入れを行った公開授業および授業研究会を実施した。公開授業では、中学校1年生での学習を視野に入れ小学校教諭と中学校教諭が授業を行った。また、授業研究会では「書くことの指導のための小中連携の在り方」について中学校区ごとに指導者がグループをつくり意見交換を実施した。本年度も中学校区で話し合うことをとおして、小学校の学びが中学校の学びにどう繋がっていくのか考えることができ、天草管内の先生方にとって学びの多い授業研究会となったと考える。

今後も、「天草はひとつ」を合言葉に、小学校、中学校の垣根を越えた協力をしていきながら、児童生徒が豊かなコミュニケーション能力を身につけることを目指して、実践を積み重ねていきたい。